

## 見える化にZ - G I Sを活用しています！みのり片子沢

岩手では、県本部が熱心にZ - G I Sの普及を進めており、導入した経営体で活用が進んでいます。今回は、JA新いわて管内の株式会社みのり片子沢（かたごさわ）をご紹介します。

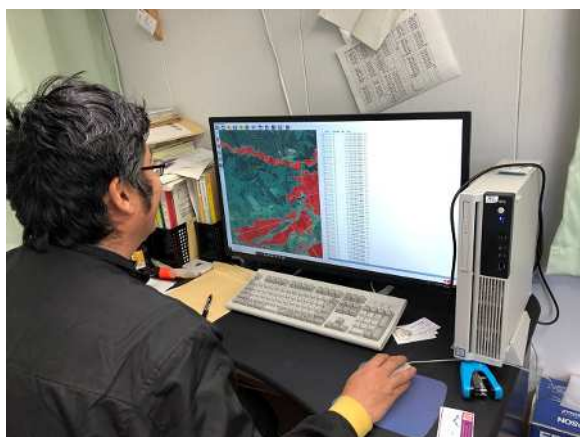
### 地域の発展とともに

みのり片子沢は、もともとは生産組合でしたが、平成24年に「地域のために事業の可能性を広げる」ことを目的に株式会社化しました。地域農家の圃場管理受託を中心に生産を拡大し、Z - G I Sを活用した効率的な経営をおこなっています。

### Z - G I Sが威力を発揮

みのり片子沢は、中山間地の圃場で、米、小麦、大豆、菜種、WCS（飼料米）を約50ha栽培しています。さらに、育苗ハウス6棟を夏季利用し、ういずoneによるミニトマト栽培をおこなっています。

「栽培する品目が多く、当社にはZ-GISが適している」と三宅専務は言います。圃場登録数は500筆で、従業員間の作業指示にも役立っています。使用している農機も多く、機械の管理のためKSASも並行して使用しています。



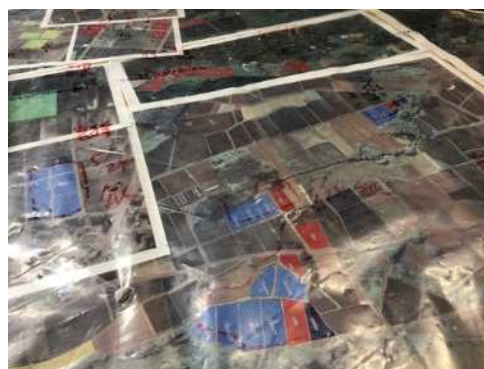
Z - G I S を操作する三宅専務

### 使い方の工夫

みのり片子沢では、作業者全員が確認できるように、作業テーブルの上一面にZ - G I Sの圃場写真を加工して載せています。作業期間中は、ビニールを貼りその上からマジックで作業指示を書き加えています。

### Z - G I Sによる見える化

生産現場ではよくあることですが、圃場名を屋号や地域名で呼ぶことがあり、その地域の在住者以外は、圃場を特定できないことが多くありました。Z - G I Sの導入後は、印刷した圃場地図の活用や、PCやスマートフォンでの確認などができ、見える化が進み、仕事の効率がよくなりました。



テーブルの上に拡大した圃場の写真を置き、ビニールを貼り指示を書いています

増設した6棟の育苗ハウスと広大な圃場が広がる風景は雄大です

